≪ 巻末の付録USBメモリに詳細版を収録 ≫

第15部

サイバーセキュリティ情報交換技法（概要版）

CYBEX WGは相互接続性をサイバーセキュリティ分野において確立するために活動している。相互接続性により、事業者を超えたサイバーセキュリティ運用を促進することができ、また問題発生時の対策を迅速化することができる。

2009年度までWIDEプロジェクトでは、事業者をまたがるパケットが引き起こす様々な問題に対処するためTraceback WGにおいて活動してきたが、近年のネットワークの高速化、アプリケーション層における問題の複雑化を考慮し、2010年度よりCYBEX WGにおいてネットワーク層に限定されない、より広いアプローチとして、サイバーセキュリティ情報の交換技法と国際標準化に関する研究を行ってきた。より具体的には、サイバーセキュリティ情報の符号化方法、構造、関係性および交換プロトコルについて実証的理解を深め、国際標準化の動向に呼応した技術検証と利活用技術の蓄積に取り組んできた。

2012年度はサイバーセキュリティ情報源の発見に注目した取り組みをおこなった。通常、数多くのソフトウェア部品やネットワークプロトコルのそれぞれについて脆弱性管理をおこなう必要があるが、サプライチェーンがグローバル化する今日、このための脆弱性データベースが各国に、また場合によっては目的別に分散しており、サイバーセキュリティ情報を効率的に発見するための機構が必要とされている。このための情報源の記述方法、および情報発見のためのメカニズムについて述べる。